



# アンコールクライマーズネット (ACN) ニュースレター

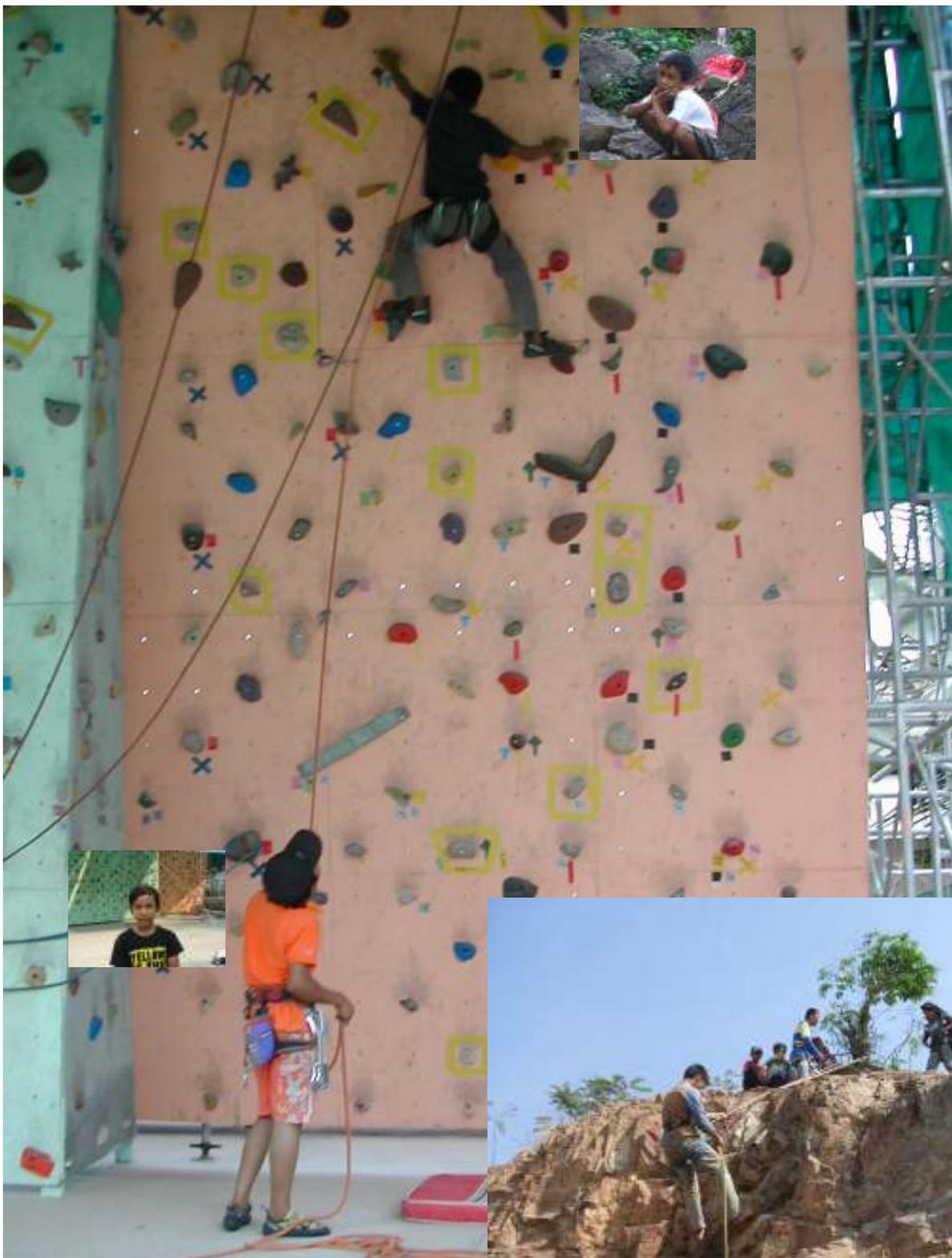
by Angkor Climbers net

アウトドア総合ブランド (株) モンベル、アウトドアギヤ輸入販売 (株) ロストアローより賛同・支援をいただいています。

[www.angkorclimbers.net/](http://www.angkorclimbers.net/)

2011/5/31 第6号

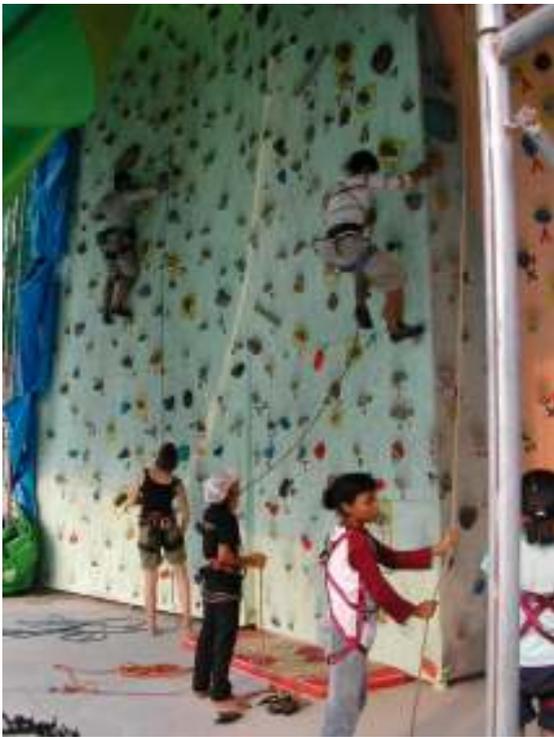
## Khmer Youth : クマエ (カンボジア人) ・ユース・クライマー



白馬村から来た助っ人、多川敦さんの置き土産5. 10cの人気ルートをリードするNCCCのハートチャイルド、ロチ・ローロオ、ビレイはティニスオ。じつはこの直後、ローは初めてのロングフォールを経験してアドレナリンが全開、クライミングの深い虚空を垣間見た。また、ティニは偶然とはいえ衝撃をうまく流してビレイ出来た。お陰でローは空中で何のショックも感じなかった。

5月の祭日を使ってトンレサップ湖の北辺に立つ小さなボタ山、プノン・クロムへ出掛け、ロープワークやラッペルを練習した。





ACN-YOUTH メンバーは19名、そのうち7名がリードでトレーニングしている。クライミングの上達は分かり易いけれどビレイはなかなか。でもリードの鍵は、的確、正確なビレイ、そしてビレイヤーとの信頼関係であることに誰もが気が始めた。



モニイ



テビイ



ダイ



メサ



セイハ

ACN-YOUTHの中心はスムロンが教諭を勤めるプレエンコーサ中学校の生徒たちだ。プレエンコーサは急成長する富裕層をターゲットにしたハイカラな学校ではない。地味でバランスのとれたごく普通の印象だ。番長もいるし貧しい子もいる。そしてひどく貧しい子も。仲間外れもいるし大勢で遊ぶ子もいる。様々な問題と幸せが同居している。そしてすべてが塊として明るい。ことに放課後の校庭はスゴイ活気で、そこに立つと子供の頃を思い出す。そして長かった内戦の只中にいた世代が遠くに見たかすかな希望の光がたぶんこの子達なのだ。

## New unit : 攀じる TAXI ドライバー : Kim Sroy(キム・スロイ)



(左) クライミングをやり始めてすぐに  
Sroyのリードにトライするキムスロイ。負  
けず嫌いなのだ。  
(下) ウォールのスラブ手前に作った事務  
棟はじつは屋根と柱しかない。一角をレン  
ガで区画して装備類のストアを作り始めた  
スムロンとキムスロイ。

(上) アンコールワット遺跡観光ではトゥクトゥクを操り、その他ではトヨタカムリを駆るクールなドライバー。伊藤とは2006年からの付き合いだ。ACNパイオニアのひとり、ポテト(JOCV メンバー)の仲良し運転手だった。当時は岩場まで僕らを連れて行き、クライミングの終わるのをじっと待っていた。1月のワークショップでクライミングを体験、じつはずっとやりたかったと告白。いまでは、ACN最強のメンバーのひとりとなった。お父さんが英語の教師であり、その影響かアメリカ人もびっくりのきれいな英語を話す。32才、心優しい2児の父親。



# Monsoon @AW: 二度目の雨季を迎えたアンコール・クライミング・ウォール



2回目の雨季を迎える AW。前面のブルーシートは新品と交換。側面、背面は構造体との連結方法を変更。シート自体はダメージも無くそのまま継続利用とした。左端90° 壁は前にせり出しているため前面下部に日本から持ち込んだ鮮やかなブルーシートでラップ、左端のカンテも同じシートを縦に連結してコードを細工し、クライミング時にはそれを引くだけでオープン、登る壁が現れる仕組み（下の左端写真）。前年のパラスト（重り）はほとんど崩壊。今季は日本から持ち込んだ土嚢144袋を置いた（写真は下中央）。下の右端写真は、構造体の腐食箇所。ここには板金をパッチして亜鉛メッキした。他に構造体の単管を森山議雄さんの同意を得て、不要部分を削除、プレースを追加した。

AWは、昨年(2010年)10月オープンから4月までの7ヶ月で97名のビジターに利用された(別表参照)。そのうちクライマーは僅かで、カンボジアのクライミングがほとん



ど認知されていないことが身にしみた。しかしクライマーは街に滞在している限り繰り返して来る。下の写真は左から、ティニ、スムロンと米国 NGO・PepyRide のメンバー (プライベートレッスンの最初の生徒モンタナとアダム)。ベトナムへ向かったクリスティーナ (ドイツ)、子供病院でボランティアするアニカ (ドイツ)。右端はスムロンをビレイする前出モンタナ。



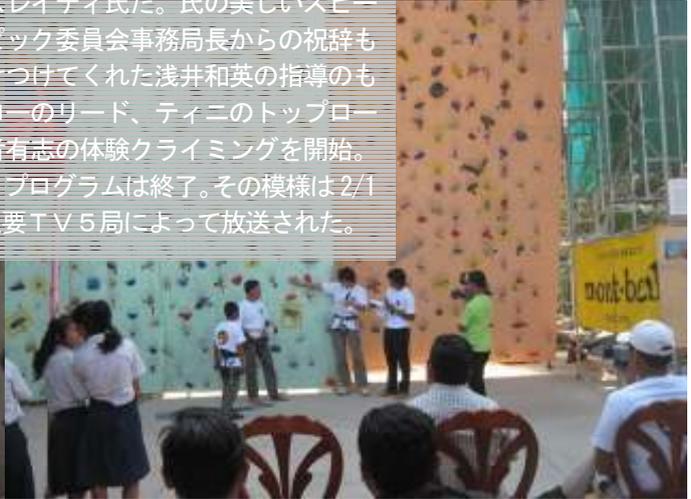
## ・ビジター集計

年月	利用者人数				12歳以下の子供の人数
	合計	カンボジア人	日本人	その他	
2010/10	13	—	—	13	10
2010/11	15	—	—	15	7
2010/12	15	7	3	5	—
2011/01	4	—	2	2	—
2011/02	16	3	2	11	—
2011/03	29	9	4	16	—
2011/04	5	—	—	5	—
<b>合計</b>	<b>97</b>	<b>19</b>	<b>11</b>	<b>67</b>	<b>17</b>

## Workshop : 初めてのクライミングワークショップ無事終了



2011年1月30日午前8時、伊藤はカンボジアでクライミングをスタートします、と60名余の来客者を前にして宣言した。初めてのワークショップは本来のワークショップに儀式をミックスしたものとなった。スムロン、伊藤がプロモートして設立されたカンボジアクライミング連盟の理事長は、シェムリアップ州教育局長のウンスレイディ氏だ。氏の美しいスピーチに続いて市長、オリンピック委員会事務局長からの祝辞もいただいた。日本から駆けつけてくれた浅井和英の指導のもと、NCCGの孤児ロチローのリード、ティニのトップロープ演技があったあと来客者有志の体験クライミングを開始。そして11時、ほぼ予定通りプログラムは終了。その模様は2/1の朝夕にカンボジア国内主要TV5局によって放送された。



## NOCC : カンボジアオリンピック委員会と、CCF : カンボジア・クライミング連盟

2011年1月15日、プノンペン市のナガワールドホテル・バンケットルームにて、2009年の設立以来3回目となるNOCC総会(Extra-ordinary General Assembly 2011)が開催され、CCF事務局長のスムロンは同連盟代表として、伊藤はNOCC事務局長ヘントン氏からの個人的な招待を受けて出席した。

僕らの席に用意されていた小さなパネルにはクライミング連盟ではなく登山連盟(Mountaineering Federation)と書かれていた。クライミングが登山のサブカルチャーであると認識しているひとが、少なくとも委員会に一人はいることに思い当たり、良い兆候だと感じた。



Mountaineering Federation、と表記されている

NOCC傘下には現在、全国72連盟が名を連ねていて、会場にはその代表者など総数約150名が集結し、成長著しいサッカー、テニス連盟のプレゼンが行われた。来年のオリンピック開催国となる英国も熱いスピーチを展開、また、米国からはオリンピック開催における組織運営のポイントが解説された。

カンボジアがオリンピックへの参加、開催?にこれほど意欲的だとは思ってもしなかったのでびっくりした。そういえばCCF設立趣旨のプレゼンを行ったときも、委員のひとりからクライミングはオリンピック種目なのか、としつこく聞かれた覚えがあった。(伊藤)

## Perspective : ACNとCCFの連携と見通し

### ・CCFコンペ

例年なら5月中旬に雨季に入るが、今年は3月の日照が異常に少なく気温の低い日が続き、そのままずると雨季になってしまった感がある。雨季になると、ウォールのビジターは激減した。ACNスタッフもYOUTHも気持ちが沈み、折りしもスムロンがNOCC委員からまだ何もイベントをやらないのかと背中を押された。そこで、6月26日(日)に、CCFの主催でACNが運営を担う初めてのコンペを計画した。アンコールカップ (Angkor Cup) と命名したがミーティングを重ねるとすぐに準備期間が足りないことに思い至った。そこで、大会名をプレ・アンコールカップと変え、目的をコンペ運営のトレーニングと決めた。スポンサーなし、サポートなし。すべて自力でやってみることにした。次号ニューズレターで、その結果を報告することになるだろう。

### ・CCFの活動について

CCFはまだ入れ物があるだけで、実質を伴っていない。伊藤は部外者だが、プロモートした責任もあってスムロンの相談役といったところ。で、コンペを企画することでCCFの仕事が山ほど浮かんできた。以下、ほんのさわり。

#### 一連盟登録 (団体、個人)

選手登録、審判登録、競技施設認定及登録、その他の登録。

※ACNはCCF傘下のシェムリアップ州代表アソシエーションといった立場。従って、例えば、シェムリアップ州のCCF選手登録はACNで一定の評価を得たクライマーがその推薦を受けてCCFに選手登録できる。

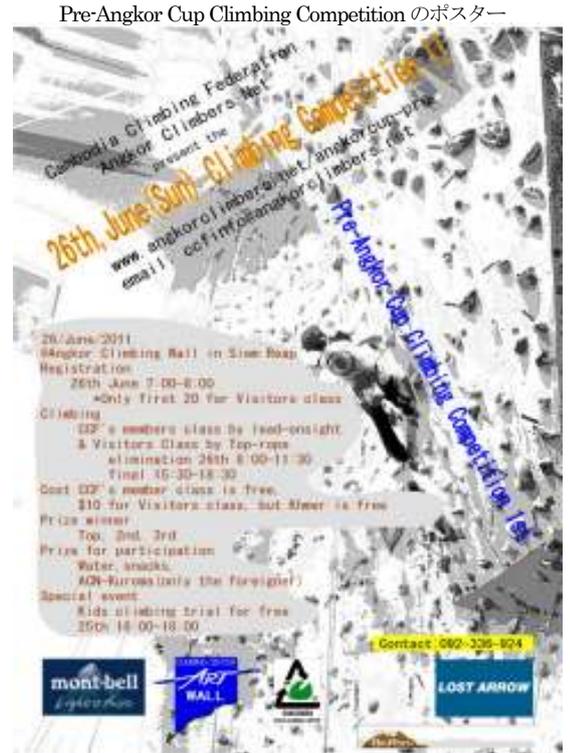
#### 一年間活動計画

クライミングワークショップ、クライミングキャンプ、コンペ、総会、その他連盟にふさわしいイベントの開催

#### 一選手等の選出、派遣

一IFSC (国際スポーツクライミング連盟) への加盟

一会計及び事務局体制



## Miscellaneous : その他

### ・AW案内板設置と事業許可証

国道6号線に写真のような小さな案内看板を設置した。初めてAWに来られる方はこれを目標に。上にある立派な看板は高級? ゲストハウス INDARA-DEVIのもので、ご主人のご好意により、おまけのようにつけさせていただいた。この看板の設置に伴いAWの事業許可を、シェムリアップ市より受ける必要が生じた。(右下の写真が事業許可証)

### ・サムコス山登山遠征

ACNには将来スムロンを中心に小さなクライミングスクールをオープンするといった見通しがある。なので山歩きも必要なアビリティとして経験を積んでいきたい。5/13~5/18にポーサット州カーダモン山脈西端のカンボジア第2高峰サムコス山に登りに出掛けた。メンバーはスムロン、キムスロイ、伊藤の3名。しかしす



秀麗な山容のサムコス山 1776m

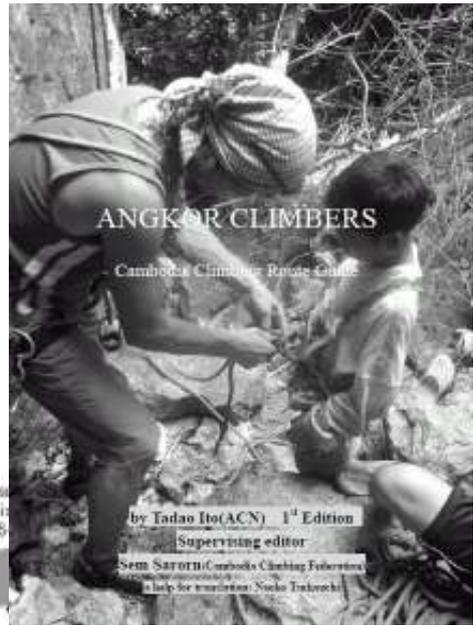
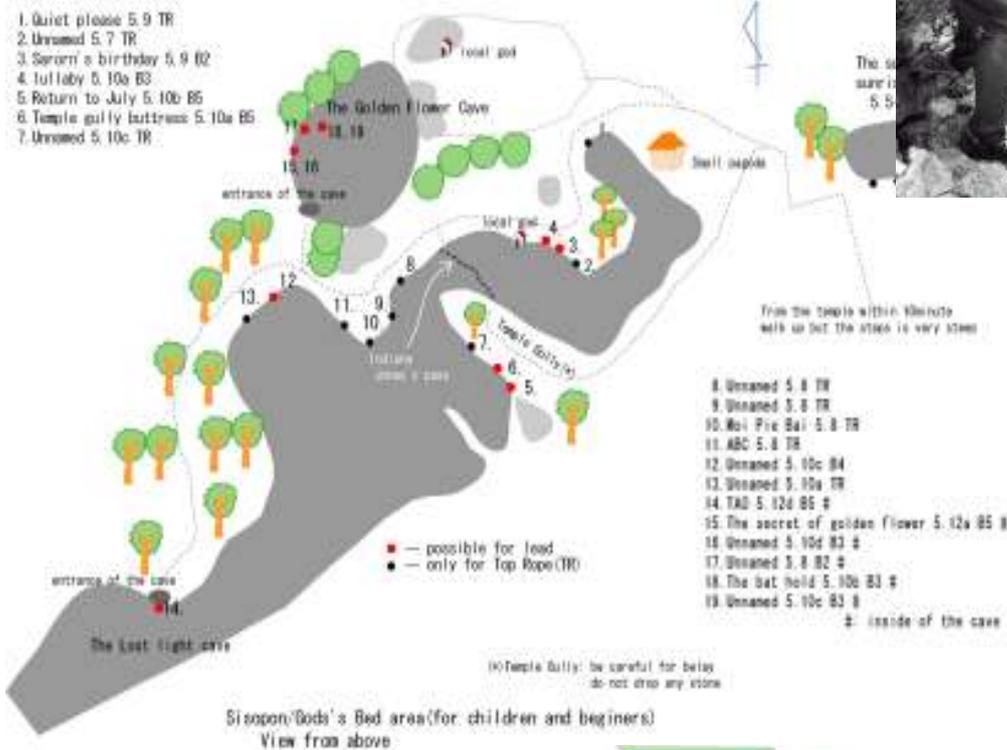
で雨季に入っておりタフな密林にトレールを失い敗退。この山行で環境省の入域許可取得について簡易なパイプが出来た点は○。今後は\$20程度の経費で短時間に許可が取れるだろう。しかし環境省は登山についてのガイドプランを半ば強制する。じつはそれも検証したかったこのひとつだが。実態は登山ガイドもレンジャーも登山に関しては十分な技術も経験もない。僕らが登れなかった最大の原因はひとりのガイドに我々3人と、AK47と実弾を持ったレンジャー2



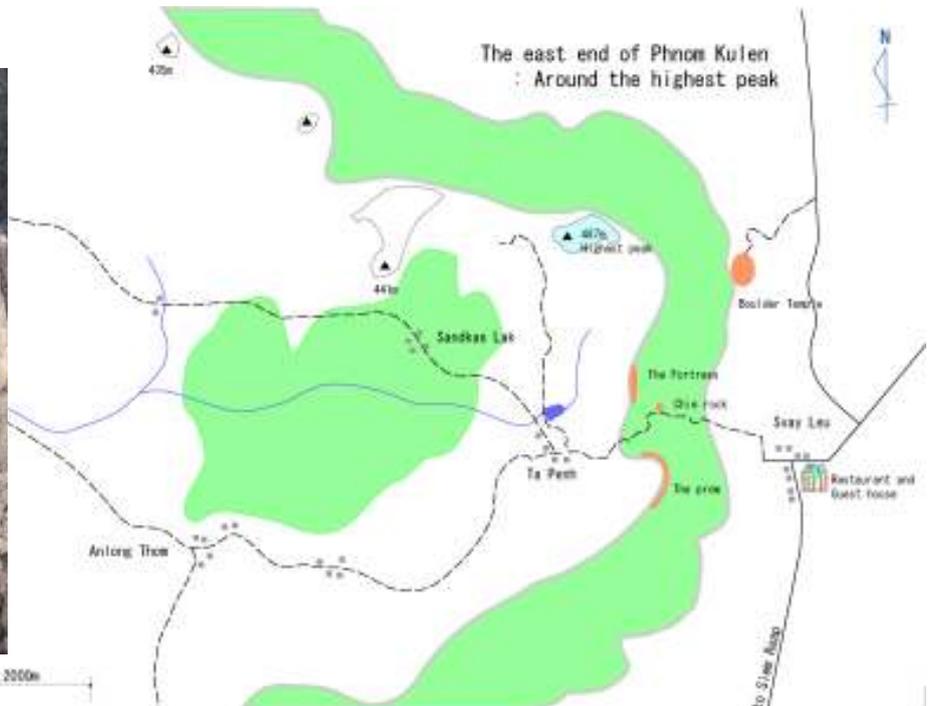
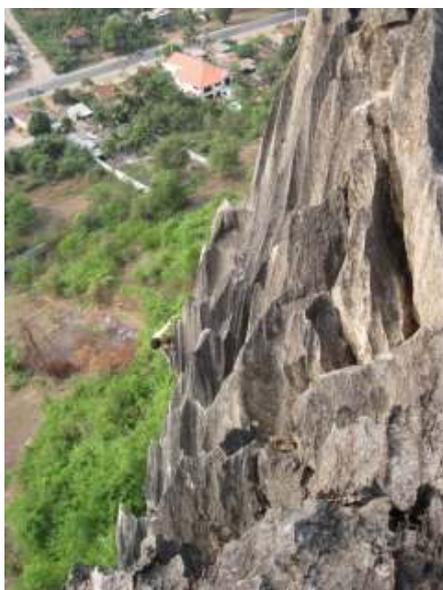
人の水と食料を持たせたことにある。タスクフォースがでたらめなのだ。スムロンとキムスロイはレンジャーの異様なペースに惑わされ、ガイドは60kgになった荷物に嫌気がさして道を忘れたとまるでストライキ、登山不能な状態になってしまった。次回はリセットして来年2月に再トライの予定。(伊藤)

## ・クライミング・ルート・ガイド・ブック

伊藤とスムロンでまとめたクライミングガイドブック「ANGKOR CLIMBERS」が完成。62ページのうち、イラストレータで書いたトポ(ルート図)が30ページを占める。ACNが開拓した岩場がメインで、先人のエリアではACNが登ったルートのみ解説している。基本的には日本語で表記しているが、英語圏のひとにもある程度利用できるよう、一部を英文と併記。また、スクリプト表記については、ほとんどの日本人が理解出来ると想定、英文のみとしている。商業誌化は完全に英語化出来なければ不可能だろう。将来‘Rock Climbing in Cambodia’の著者ベンと共著でのリバイズも考慮している。現時点では開拓用のボルトに掛かる経費をこれで集めたいとの一縷の希望がある。一冊でボルト2本分\$10程度のカンパを募りたい。トポに関しては欧米のクライマーからメールでの問い合わせがたまにある。岩場のあるお寺への寄進やその他クライマー



としての倫理、マナーに関する約束事に同意を確認の上、トポのみPDF版をWebに置き、1週間有効な参照用パスワードを送って対応している。(伊藤)



## ・2011年5月のアラート：シソポン神々の寝床エリア

シソポン神々の寝床エリアにおいて終了点のハンガーが約20ヶ所、ランナーが数ヶ所、無くなっている。誰が、なぜ、は不明。しかし坊さんのサイドビジネスとは思わない。定期的に寄進しているし。悪意があるとも思えない。ステンはお金になると思うのか、実際にそうなのかも分からない。カルト的な倫理を持ち込む欧米人？はいないと思うが、それも分からない。倫理なら一帯の地雷をまず回収して欲しいが。しかし、このままルート情報のみが広がることに危惧を持っている。そこで、ACNでは希望者があれば、利用後返却の同意書記入、及び一定金額のデポジットを条件に、ハンガー、ナット、スパナを貸出すことにした。ACNのWebサイトでアナウンスしている。

### エリアの位置と簡単な紹介

カンボジア北西部、バンテアイ・ミンチェイ州の州都シソポンにある“崖山寺”の裏手に連なる石灰岩岩峰群の中央東寄りに“崖山寺”の急な参道が頂稜へ続いている。トップまで辿り北側に回りこむと、林の中に高さの無い石灰岩の壁が切れ切れに現れる。日陰が多く風通しも良い。一帯を“神々の寝床”と呼び、子供や初心者向けのエリアとして、2009年から開拓を続け、現在25本のルートがある。取付きは概ね平らでほとんどプレッシャーを感じないだろう。壁の基部にネーミングの由来となった小さな土着神（ネアクター）がある。



### ・帰ってきた Arts Wall

先の4月1日よりNCCCの子供らは、僕らには手の届かない運営に関するトラブルからか、クライミングの継続が不可能となっている。(NCCCオーナーのNGOハートオブゴールドと、運営者NGOるしなの関係は、部外者には見えにくい)この件に関し、ACNに何らかの非があったという情報はないが、彼らとはクライミングどころか恐らくあらゆる接触も絶たれているようだ。多川敦さんからの贈り物、Arts Wallは、その深刻さを語るシンボリックな雨ざらしとなって、先ごろ僕らの手元に回収された。また、ラタナもご両親からの禁止令でクライミングを継続できなくなった。こういう一方的な事態を黙って受け止めていていいのかわかどうかわた判断出来ない。しかし事実がどうあれ、いずれその細部はみなさんに明らかにしなければならぬと思う。NCCCとの拘わりはACNが活動を開始した重要な起点のひとつだし、それはAW建設計画にも深く影響していたのだから。

## From ACN's Desk : 事務局から

### ・寄付・寄贈などについて

2011/5/31 現在までの、寄付金累積総額は、**¥3,398,673 + US\$6,320** となりました。また、里親基金累計総額は、**¥460,000 + US\$1,250** です。ご寄付いただいた方、及び里親となっていたいただいた方は、**57名様** となっています。大変ありがとうございます。

2010年11月～2011年4月までに、ご寄付、ご寄贈、里親出資いただいた方は下記の通りです。なお今後は、email版ニューズレターと連携して対応する期間に寄付された方のお名前だけを本誌にて、順次お知らせしていきます。

#### 一寄付、寄贈

清水恵美子様、堀田圭子様、中江恵美子様、森田己男様、榎澤健治様、虎本節子様、安田至宏様、高橋千鶴子様、栗原孝様、石川賢三様、有泉重正様、沢田千鶴子様、大澤昭夫様、林武子様（順不同）

#### 一里親

堀田圭子様、才原明男様、榎澤健治様（順不同）

#### 一備品寄贈

丸山明子様、中江恵美子様、森田己男様、玉井史人様（順不同）



### ・ACNグッズ販売について

#### 一WS-Tシャツ、カンボジア内在庫完売

ワークショップ記念Tシャツ（右上写真、ロチロー：右、ティニ：左、が着ているTシャツ）のカンボジアストック分（M、Lのみ）が完売しました。（Sサイズは浅井和英氏が佐久平クライミングセンターにて販売中です）

#### 一ACNクロマー、バージョンⅡ完売

プロルンクマエとのコラボグッズ、ACNクロマーのバージョン2（初期版より少し小さいサイズ）が完売しました。ありがとうございました。バージョン3（さらに小さくなり、日本の手ぬぐいサイズ）の販売を開始しています。（右下写真参照）



★★★ 寄付金口座 ★★★

■ゆうちょ銀行

記号 10010  
番号 75286831  
口座名 アンコールクライマーズネット

■三菱東京UFJ銀行

支店名：調布支店  
預金種目：普通預金 口座番号：0081781  
口座名：アンコールクライマーズネット

Webサイトでもご確認出来ます

[http://www.angkorclimbers.net/can\\_donation.html](http://www.angkorclimbers.net/can_donation.html)

☆☆☆ アンコールクライマーズネット連絡先 ☆☆☆

■アンコールクライマーズネット（日本）  
伊藤忠男気付  
〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506  
tel. & fax +81-(0)42-498-2488

■アンコールクライマーズネット（カンボジア）  
Angkor Climbers Net (ACN)

tel. +855-(0)77-508653, +855-(0)12-1759970

・郵便住所  
POBOX 93044, Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

・所在地  
c/o Moloppor Café  
Wat Bou village, Salakomrauk commune  
Siem Reap, Siem Reap, Cambodia

■ email [info@angkorclimbers.net](mailto:info@angkorclimbers.net)

No more Monk 5.12 27m B9 →

プノンチエリアに残された最大の空白部、  
ノーモアモンクス東壁のトップロープ課題  
に遂にランナーボルトが入った。

← 蛭避けのゲーターを履く

サムコス山で蛭の侵入を防ごうとレンジャー  
から借りたゲーターを履くスムロン。し  
かしどういふ訳か、蛭は足を這い上がって  
彼を悩ませ続けた。

## contents

- 01 Khmer Youth  
クマエ（カンボジア人）・ユース・クライマ
- 02 New Unit  
攀じる TAXI ドライバー：Kim Sroy(キム・スロイ)
- 03 Monsoon@AW  
二度目の雨季を迎えたアンコール・クライミング・ウォール
- 04 Workshop  
初めてのクライミングワークショップ無事終了
- 05 NOCC、CCF  
カンボジアオリンピック委員会とカンボジア・クライミング連盟
- 06 Perspective  
ACNとCCFの連携と見通し
- 07 Miscellaneous  
その他
- 08 From A.C.N's Desk  
事務局から

※写真、地図、イラストはすべて ACN  
オリジナルコンテンツです

## editor's note

6号をお届けします。前号同様にeメール登録されている方には、url  
からサーバーに置いたPDF(メール添付)にアクセスしていただきました。  
資源と経費、両面からの対応です。Emailアドレス未登録の方には、従来  
通り印刷して郵便でお送りしましたが、カンボジアからの発送ですので発  
行日よりかなり遅れて届いたと思います。ご理解を。Emailをお持ちの方  
で紙版をご希望の方はご連絡ください。なお、6月はACN会計年度末月  
となります。次号は2010年度決算及び事業報告の特集で、8月末の発行を  
予定しています。どうぞよろしく願います。(Chu)

©禁無断転載

## アンコールクライマーズネットニュースレター

2011年5月号 NO.6 2011年5月31日発行

非売品

発行人 伊藤忠男  
編集人 伊藤忠男  
発行 アンコールクライマーズネット (Angkor Climbers Net)  
〒182-0025 東京都調布市多摩川5-3-1-506  
tel 042-498-2488 fax 042-498-2488  
[www.angkorclimbers.net](http://www.angkorclimbers.net)